

知事広聴：平太さんと語ろう

発言要旨

日時：平成22年12月22日（水）13:30～15:10

会場：水窪山村開発センター 集会室

1 出席者

- ・ 浜松市天竜区水窪町・佐久間町において、様々な分野で活躍中の方
4名（男性2名、女性2名）
- ・ 傍聴者 約100名

2 発言意見

No	項 目	県関係部局
1	佐久間町消費者グループ等の活動 佐久間町に住む不安	該当なし 交通基盤部 道路企画課
2	高齢者を支える活動への支援	健康福祉部 地域福祉課
3	子育てサークルの活動 道路整備の要望	健康福祉部 子育て支援課 交通基盤部 道路企画課
4	林業の課題と地域の活性化	経済産業部 林業振興課、農山村共生課 交通基盤部 森林計画課、森林整備課
5	山所有者の負担軽減を 外国資本による山林買収	経済産業部 林業振興課、農山村共生課 交通基盤部 森林計画課、森林整備課
6	山の崩落を防ぐ対策を	交通基盤部 森林計画課、森林整備課

3 意見交換内容

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>1 佐久間町消費者グループ等での活動と佐久間町に住む不安</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者グループとして、88歳から50代ぐらいまでの幅広い年齢の人たちと一緒に、夏の天竜川での水生生物の調査、エコバッグの利用や廃油石鹸の再製など浜松市全体でのCO₂削減を目標とした活動、高齢者をねらった悪徳商法への注意喚起、消費力向上のための呼びかけ活動、小学生へ消費の大切さを伝える活動などを行っている。 ・ 佐久間町にはNPOタクシー「がんばる君」が運行されており、町の人たちの大切な足として喜ばれている。 ・ 佐久間町に限らずこの辺りは、高齢化率においてトップクラスを進む町である。世界中で経験のない道を歩いていくので不安もいっぱいある。環境的には山間地であり、とても危険な場所も多く、整備してほしいところもたくさんある。山の環境は特に悪く、それに伴って護岸も傷んでおり、災害時の状況を考えると心配である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境を重視し、CO₂を削減するために運動されているということは誠にすばらしい。 ・ CO₂を削減するという地球全体の目標として、身近なもので夏にホテルが戻ってくるようにしようとすると、川のせせらぎ等も必要になり自然に帰ることに繋がる。 ・ 四季の変化がなくては日本ではない。四季の変化を取り戻すということがとても大切である。 ・ 自然の流れの中で生きてきたということ認識し、環境運動をしているということは日本を取り戻す運動である。 ・ NPOタクシー「がんばる君」は、いわゆる公のバスである。ドア・ツー・ドアで、電話1本で、あるいはそれぞれ買い物に行く時間にあわせて、顔が見える形で一軒一軒お年寄りのところに行くことができる。
<p>2 高齢者を支える活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月にNPO法人を立ち上げたが、それまで10年間有限会社で臨床高齢者のグループホームを運営していた。しかし大変経営が厳しく、赤字決算であった。 ・ 収入のほとんどが国からの介護報酬であるが、職員に十分な給与を払っていない。 ・ 昨年より国から介護職員処遇改善交付金をもらえるようになったが、1人月額1万円の増額がやっとであり、一般の給与水準に比べかなり低い。県には現状を理解し、対策を協議し、今後の処遇改善の指針づくりをお願いしたい。 ・ 厚生労働省が年1回全国的な実態調査を行い統計的に処理し公表しているが、それでは個々の実態は見えない。 ・ 収入が介護報酬と利用者からもらう利用料であることから、その利用料を低く抑えようとすると、職員の給与が 	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのためには、運転手と車が要る。町の中にそれが巡回する、あるいは電話1本で常に機動的に運行できれば、これは最も新しいタクシーの考え方である。 ・ 世代的に言うと、60代、70代の方々が、40代、30代の方々よりも実はお金を持っている。それは高齢、病気の際の安心のために持っているのであって、安心して使えるように、あるいはしっかり預かり、福祉やその方の役に立つように使うにはどうすればいいか。また、銀行にただ眠っているだけのお金をどう活用するかを我々は考えなければいけない。 ・ そのような中で、介護職は就く人が少ない、労働がきつい、しかし、なりたい人はたくさんいる、というミスマッチが発生している。 ・ この解消にはとりあえず、介護報酬を上げる必要があると思う。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>低くなってしまふ。実情をくんで、状況をしっかり把握してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NPOを立ち上げた理由は今の事業をより多くの方に理解し、支えてほしい、その基盤をつくりたいということからであり、また佐久間町・水窪町とも超高齢化が進行しているため、将来にわたって安心して生活できる基盤、システムをつくる民間組織が必要であり、それに寄与したかったからである。 ・ 住民個々で生活の課題は異なるので、住民たちで支え合わないと、きめ細かい対応は難しい。そのための組織、事業が必要である。 ・ 国では高齢者に関して地域包括ケアを打ち出し、モデル事業として安心生活創造事業を始めている。内容は家族がサポートできない一人暮らし世帯への基盤支援であり、見守りと介護支援という今後特に山間地で大変重要なものになる。 ・ 自分の住む地域では体の不自由な方が買い物や通院に苦労している姿をよく見かけ、胸が痛くなる。住居からより近いところで買い物ができること、町への通院や買い物も乗り合い車で行けることが必要ではないか。 ・ こうしたことを行政や住民で考え解決することが、これから必要になる。NPOとして安心生活創造事業に近い活動をできるだけ先行して、取り組めないかと考えている。 ・ 常に一定のボランティアを確保できないと具体的に取り組めない。ボランティアといっても必要経費が生じるが利用者の会費だけでは不十分なので、行政の資金援助を期待している。また、限界集落対策や、それを支援する民間組織の育成にも県として積極的な支援をしてほしい。 ・ 安心生活創造事業は全国 58 の市町村でモデル事業として取り組んでいるが、静岡県では実施していない。日本の将来といえる北遠地区で、県独自にモデル地域としての実施を検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護は立派な仕事であり、いつかは誰にも必要となりうる重要なことである。報酬が少ないのは非常に問題であり、数を増やし、普通の収入を得られるようにしなければならない。 ・ 県や市町がやっていることで、市民ができることは市民に譲り、その時はちゃんとお金を付ける。すぐには全員にお金が回らないかも知れないが、そういう方向で考えている。 ・ 阪神大震災でのボランティア活動にみられたように日本人は元々ボランティア精神を持っている。 ・ 県や市町は多額の借金を抱えており、借金を増やさないようにやり繰りしている。 ・ そのため現在は高齢者、福祉、医療、子どもの教育、出産という基礎部分は県や市が助け、その代わりに、皆さんでできることはやってもらうという流れになってきている。 ・ NPO活動で社会的基盤を広げ、会費などで必要経費は賄えるようにしたいということなので、これは行政で支えなくてはならない。 ・ 国が行う安心生活創造事業のモデルの取組をしたいとのことなので、一緒に支えたいと思う。 ・ 今、一番生活環境が厳しいのは、限界集落と言われる中山間地域と見られているが、私は逆にこれからの時代は中山間地域であると考えている。 ・ これまでは都会に行っていたが、今都会の人は緑がほしいと言っている。中山間地域がこれからの先進地であり、都会と豊かな緑のあるところとがバランスよく行き来できるようにすることが大事だと思う。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会生活維持のため施設整備を行う際は、主要な建物にエレベーターを設置するなど足が不自由な方など誰でも利用できるような建物にするよう市とともに対策を講じてほしい。 ・ また、NPOでは障害者の生活支援に取り組む準備も行っている。 	
<p>3 子育てサークルの活動と道路整備の要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、子育て自主サークル「ひよこの会」として、18名で活動している。今年度は、日赤浜松病院の看護師さんを講師に招いた講演会、各家庭で不要になった子供服や子供用品を回収し、必要な方に利用してもらおうリサイクル交換会、栄養士指導のもと親子調理実習を行い、家庭で簡単にできる体に優しいメニューを教える会、クリスマス会などを開催している。 ・ クリスマス会ではリース(花や葉で作られた装飾用の輪)を作ったが、参加された会員の方たちが大変喜んでくれ、役員一同、ほっと胸をなでおろした。いろいろな取組を行う中で、親子の絆が深まったり、お母さん同士の交流や子育てについて悩んでいることを解消する場になればと思い、日々サークル活動の向上に心掛けている。 ・ 小さな町で暮らし子育てをしていくことは、決して楽なことではなく、不便なことはたくさんある。 ・ 不便なのはまず道である。私が住む神原地区には工事が途中で終わってしまった道がある。自家用車はもちろん、緊急車両は絶対に入れない細い道もある。火災、土砂崩れ、誰もが恐れる東海地震と不安は尽きることがない。 ・ 子どもを産んで初めて災害の恐さを知った。私には守りたいものがある。田舎だからこういう道があっても仕方ないのか。もしものとき、緊急車両が入れないこの地域は助けを求められないのか。何かあってからでは遅い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子どもを何とか無事に立派に育てたい、育てなくてはいけないというのは、本当に重要なことである。 ・ 道をどうするかということであるが、これはすぐにできるものではない。 ・ 1週間ほど前にリニア新幹線のルートが発表されたが、飯田に停車するとすると浜松の近くで大きな町ができることにも増して、飯田にも同じような町ができる。そうすると三遠南信自動車道が必要となってくる。その時に、この地域をどうしていくか考えることとなる。 ・ 人が通るだけでなく、救急車が通れるか、ヘリポートをつくれるかなど防災の観点も踏まえて道路をつくらないといけない。 ・ 私は県議会の所信表明の際、以前は経済分野から話していたのを危機管理からはじめるようにした。そのように地震、台風といった危機管理が一番重要と考え、全庁を挙げて行うという観点でやっている。 ・ 三遠南信自動車道の整備についてもそのような観点でやっていく。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・ これからの明るい未来のため、子どもたちの輝ける将来のため、日々尽力しているが、一市民にできることには限界がある。これから育っていく子どもたちに、「やっぱり水産がいいね」と言ってもらえるようなまちづくりに「ひよこの会」として、また一個人として貢献していきたい。 	
<p>4 林業の課題と地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 政府は10年後の木材自給率50%達成を目指し、森林再生プランを実行しようとしている。その内容は、林地に道路を造り、大型機械で木材を生産するということである。しかし、この地域のように急峻なところでは、道路だけでは危険であり、より一層の災害をもたらしてしまうので、道路とワイヤーロープを張った方式が最適だと思う。ただ、今までのようなワイヤーロープの張り方では、コストがかかるので、切磋琢磨してどのようにコストを下げるかが一番の課題である。 ・ 水産町全体で大きな材積が眠っている。採算さえ合えば安定的に木材の供給ができる地域であるが、このような環境にある地域でもあり、できない一番の理由は材価が安いということである。 ・ そして、この地域にたとえ林業が再生しても、地域全体が活性化しないことには、林業希望者が来ても、長くは住めないと思う。地域全体が活性化することを考えなければいけない。 ・ 林業を第一次産業とした六次産業がこの地域でも考えられる。知事が話されたようにリニア新幹線が飯田で停車するならば、この地域を表玄関として大きな土地にゆとりある住まいをつくる構想を実現させる。また、四季折々、各所いろいろな顔をのぞかせており、広葉林は特にどこの地域よりもすばらしいので、それを活かす。水産独自の料理を利用する。そうしてお客を呼び、定住化を図り、町自体を活性化させなければ、林業もいずれは 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国は農林水産業のうち食料自給率はカロリーベースで今4割弱であり、これを何とか5割にしたいとしているが、木材はもっとひどく、20%台である。これを上げたいと考えているが、地域の実情に合った木材の生産方法については、現場の方に聞くのが良い。 ・ また、大事なことは、木材を使うかどうかである。切り出しても使うところがないといけない。沼津でコンベンションホールをつくる計画があったが、当初の計画ではどこにでもあるような図面であった。そこで、沼津の千本松原をイメージに大小様々な1000本の丸太を使うものに変更した。 ・ 地域のものを利用するという意思が働いたのである。草薙体育館のケースもそうなるだろうし、これからの公共建築には、その土地に育った木を使うという考えでやっていく。 ・ 先進国で森が十分に活用されていない国は日本である。しかし、今世界の木材需要が伸びていることから外国資本に日本の森林が狙われ始めている。 ・ 山は季節ごとに表情を変える。季節感を取り戻すことを通して、自然と人間が一体となった生活をつくっていきたい。 ・ 自然の中で最も典型的なのが木であり、十分に成長した今が木を利用するときである。 ・ 暮らしを大事にしたい。所得倍増といった金のことではなく、私は暮らし空間倍増計画を考えている。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>衰退する。これからも県の指導をお願いしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らし空間倍増計画とは、都会ではなく郊外に、都会では住めないような広い庭と建物が一体となった家を持つというものである。 ・そのため、衣食住に取り組みたいと考えている。住は^{すみか}住み家の基礎であり、家・庭一体、暮らし空間倍増である。食は毎日食べるもので一番の基礎である。 ・次に医療であり、住に併せてインフラ整備が重要である。 ・ポイントは暮らしにある。暮らしを豊かにする、豊かにできる可能性のある地域はどこかという、都会ではできにくい。この地域に新しい暮らしをつくるフロンティアがあり、新しい世界が待っている。
<p>5 山所有者の負担軽減を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、外国人が日本の山を買うという話があったが、現実的に言えば、この地域は私を含めて買いたい人がいれば、売りたいという人ばかりである。今後県はそれをどのよう阻止するのか。 ・そういう人たちに山を購入されるとその人たちは自分たちのエゴで行動するため、現在行おうとしている道路をつくるなどの林業施策は、やりにくくなる。 ・今は山を持っているだけでも固定資産税や森林組合の付加金がかかり負担となっているので、今後県で指導してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度山崩れが起きた場所は、また起きる危険性がある。そのため、森をつくるには、総合的な経験の知識や専門の学者の意見を聴く必要があり、計画的に行う必要がある。それには森林組合の方々の連携が重要である。 ・山は個人のものであっても、実は公共性を持っている。 ・林業の現状は厳しいが、外国人などに山を売ってしまうと、山の保全や水の保全を全く考えないで行動し、山を削ってしまうなど何が起こるかわからない。現在だけでなく、子々孫々にまで影響が及ぶ事態になりかねない。 ・今林業は非常に落ち込んでいるが、持ち直しつつある。いろんな誘惑の手も入ってくるが、ここが頑張りどころである。後世に汚名を残さないためにもここは踏ん張っていただきたい。 ・10年後にはリニア新幹線の工事が進みその影響で地域の状況が変わる。東京中心の時代ではなくなり、本当の人間の幸せはどこにあるのかを考え始めてきている。長寿で健康でいるにはどうすればいいかであるが例えば、長寿県である長野県民は、厳しい環境にあるが、自然に触れその喜びをもって
<p>6 山の崩落を防ぐ対策を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人の発言者の方と、知事のお話は、すべて同じである。環境と四季を守ろうとしている心は一緒である。 ・私は山の地質を研究している。林業を営むために伐採を行い、山を坊主にする気持ちはわかるが、伐採後山を手当てしなければならぬ。その地形地質に合った手当てをしなければ崩落を起こす危険がある。天然林に戻すところはいいが、戻さないところは、すぐ 	

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>植林を始めてほしい。そうしないと、また山が崩落し、道路が潰れ、川も埋まり、ホタルも住めなくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然を守るには、昔の方たちのように山ごとの対応が重要である。 	<p>いる生活をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ また、こちらには森があり、水があり、食べ物がある。そして環境を大事にすることは森を大事にすることという共通認識が人類の中に生まれつつあり、全体として中山間地域の方向に世界が向かっている。 ・ 森林をいい加減に売ったりしないでほしい。
	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の皆さんとの情報交換のパイプを広げていきたい。 ・ 皆さんも要望がある場合は明確に、具体的に伝えてほしい。 ・ 自分は現場に出て勉強し、できるものはその場で解決するやり方にしていきたいと考えている。